

## 衣生活のさまざまな現象に気づきを

家政教育専修・眞鍋郁代

### 1. 授業の概観

本授業は、衣服のはたらきを学習し、ここで得た知識を自身の快適な衣生活のために生かすことを目的としている。また昨今、小中高の教育現場では、ものづくりや実験・実習など体験学習の必要性が唱えられている。小学校のころはものづくりや実験・実習にとっても興味を示し、楽しんで行っているのに、中学校、高等学校へ進学するにつれ、ものづくりや実験実習に興味は薄れ、敬遠する傾向にあるといわれている。ものづくりや実習というと職人技のような技術が必要と思い、日常生活に身近なものとしてとらえられていないのではないだろうか。そこで、身近な日常生活の現象を“なぜだろう”という疑問を持ち、身近なもので実験道具を工夫して作り、調べてみようという意欲を持たせ、実験の成果を生活に結び付けて生かすことができる家庭科の実験によって、実験の楽しさを知らせることが必要であると考えた。

ところで、最近は大学の授業においても、学生の私語対策として、興味をひかせる授業方法が重視されている。被服学のような実践科学では、ビデオ、スライド（パワーポイント）などの視聴覚機器を利用して、“百聞は一見にしかず”的な授業方法に加え、実物に触れさせたり教具の工夫を行って被服材料の成り立ちや性能などを学び、“百聞・百見は一験・一触にしかず”的な授業方法が望ましいと思われる。

以上の考えから、今年度の本授業では、講義形式の授業で被服材料の成り立ちや性能、原理などについて発問形式を取り入れてまず気づかせ、配布資料等を読んで確かめ、図・写真によってわかるように工夫し、さらに簡易な実験やモノづくり等によって考え・応用できるように組み立ててみた。

### 2. 授業評価法 と 3. 授業評価結果について

調査項目を以下に述べる。またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した。

履修登録人数は16名だが、1名が履修を途中で取りやめたため、最終的に授業アンケートに回答した学生数は15名である。

A あなた自身についてお聞きします。

(1) この授業にどのくらい出席しましたか。

①全部（8名） ②1,2回欠席（4名）

③3,4回欠席（1名） ④5回以上欠席（0名）  
⑤わからない（2名）

(2) この授業に関して授業時間外の学習時間は1回の授業ごとにどれくらいしましたか。

①2時間以上（1名） ②1～2時間（2名）  
③30分～1時間（4名） ④30分未満（8名）

(3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか。

①十分に取組んだ（6名） ②かなり取組んだ（6名） ③普通（3名） ④あまり取組まなかった  
⑤取組まなかった

(4) この授業を履修した理由

①科目名（7名） ②担当教員（2名） ③シラバスの内容（4名） ④時間割の都合（2名） ⑤その他〔自由記述〕（0名）

B 授業についてお聞きします。

(1) 先生の話し方（言葉・声の調子など）は適切でしたか。

①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか。

①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか。

①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(4) 配布資料、教科書などの教材は適切でしたか。

①そう思う（10名） ②どちらかといえばそう思う（5名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか。

①そう思う（11名） ②どちらかといえばそう思う（4名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(6) 授業の内容は理解できるものでしたか。

①そう思う（11名） ②どちらかといえばそう思う（4名） ③どちらともいえない（0名） ④あまりそう思わない（0名） ⑤そう思わない（0名）

(7) この授業を全体的にみたときに、どの程度満

足していますか

- ①満足している (8名)    ②どちらかといえば満足している (7名)    ③どちらともいえない (0名)    ④あまり満足していない (0名)    ⑤満足していない (0名)

【この授業を受けて①良かった点②改善した方がよいと思われる点を具体的に挙げてください】

(自由記述)

①良かった点に対する回答

- 実験実習が多かった点。
- 実験を通して布の性質を具体的に学べた点
- 座学だけでなくお箸入れやペットボトルホルダーなど実習が組み込まれているのは良かったと思う。
- フェルト作りなど実際に作ってみたり裁縫をする授業もあって座学だけではなかなか興味を持ちづらい内容でも積極的に取り組めたと思う。
- 実験が多くわかりやすい。
- 作業をたくさん行うことで理解が深まる。
- 様々な物作りを通して実践的な技術を得ることができたし、知識面では講義によって身につけられたのがよかったと思う。
- 実験や実習が多く、自分のスキルを上げられたと思う。今回は特に裁縫のスキルが上がった。
- パワーポイントを上手に使ってくれた。自分たちで調べて発表するのは活動的で知識の定着にも結び付いた。
- 質問しやすく楽しい授業だった。
- 作業が多かったがわかりやすいものばかりだったので楽しみながらできた。
- ペットボトルホルダーや箸入れ
- 楽しかった。いろいろ学んだ。
- 衣服についてだけでなく、生活とのかかわりも含めて学ぶことができた点。

②改善した方がよいと思われる点に対する回答

- × 時間内に終わられないものもあったので、その点を時間内に終わられるような題材に変更したりすると良いと思う。
- × 製作が必ず時間内に終わらないこと。
- × 実習をする時に明らかに時間内に終わりそうもないものは、少し量を減らした方が良いと思う。

#### 4. まとめ

授業アンケート結果より、この授業に関する問いのうち、授業者の話し方が適切か、板書やパワーポイントが適切であったか、担当教員が学生の質問や意見述べる配慮していたかについて、履修者全員が、「そう思う (10)・どちらかと言えばそう思う (5)」と回答しており、授業者として、履

修者の自主的な学習を阻害せずに済んだのではないかと自負している。1回の授業当たりの時間外学習は、2割が1時間以上、8割が1時間未満であった。履修者の授業への取り組みについては8割の学生が「十分に・かなり取り組んだ」と回答している。また、授業への興味関心を持てたか、また理解できたかについては、15名中11名が「そう思う」、残り4名が「どちらかと言えばそう思う」と回答していた。今回の授業内容の場合、昨年までの座学中心の内容に比べ、担当者の負担ははるかに増大したが、履修者全員に興味・関心を持ってもらえたことでその労は報われたと考えている。ただし、授業が理解できたかについて、履修者全員から「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答を得た点については、それでよかったともいえるが、一方で、授業のレベルをもう少し上げてほしいようにも思われた。

自由記述による評価①この授業の良かった点については、総じて実験実習が多かったことによる楽しさ、わかりやすさを挙げるものが多かった。反面、②改善した方がよい点については、今回取り上げた製作実習が時間内に終わらなかったというものであり、授業時間内に確実に終了できる教材への変更を望む意見が目立った。

製作実習については大学入学までの製作経験の有無により、その技能は個人差が大きく、同じ教材を与えてもその進度に大きな差が生まれることとなる。また、製作実習は教員から指示を受けるばかりでは上達が見込まれない。説明を受けた後は、自分の頭で考えながら作業を進める時間が必要となる。以上より、今回は必ずしも授業時間内に終了するとは限らない教材を与え、作業能力の高い者は時間内に終わらせ、時間内に終了できないものについては、時間外学習として自力で作業をすすめ、締切日までの完成を求めることとなった。担当者として判断が難しいところであるが、学生に与える負担についてトータルで再考が必要かと思われた。

最後に、本授業と教育学部DPとの対応について考える。卒業時に身につけるべき到達目標として、DP1. (知識・理解) DP2. (思考・判断) DP3. (技能・表現) DP4. (関心・意欲) DP5. (態度) が定められている。今回の授業アンケート結果より、8割の学生が「十分に・かなり取り組んだ」と回答している。また、履修者に特に評価が高かった項目として、この授業に関する興味・関心・理解が挙げられている。本授業を受講することで、衣生活分野に対する興味・関心・理解が深まったとすれば、教育学部DPのうち、DP1.~4.をクリアできるのではないかと考える。